

DENTAL 第26巻第15号・2001年秋季増刊号（別刷）

発行所 株式会社 デンタルダイヤモンド社

第2大臼歯の予防

福岡市・勤務医
中村清徳

第2大臼歯の特徴

1. 形態

上顎は第1大臼歯に似ているが近遠心的に短く、細長くなっている。裂溝の咬合面観は細長いH型で、頬側、口蓋側に伸びている。下顎は4咬頭で裂溝は十字型、頬側溝はpitカリエスになりやすい形態となることがある。

2. 萌出場所・萌出状態

第2大臼歯は、一般的には歯列の一番後ろになる。萌出直後、子どもたちや保護者の方たちは、智歯と勘違いされる方も少なくない。定期健診でみていて萌出前の膨らみがあったら、「次のこの歯までは普通に生えてくる歯です」と知らせておくと驚かれることもなくなる。萌出してくるときは、すでに第1大臼歯により咬合位が決定しているため、第2大臼歯は萌出完了までに時間がかかる。このことと後方に歯牙がないことにより、歯肉弁がなかなか退縮せず清掃しにくかったり、ラバーダムのクランプがかかりにくくなる。

また、上顎の頬側は口を開けると頬粘膜と筋突起の影響で歯ブラシが入りにくくなる。下顎はやや舌側に傾斜しているため、舌側面への歯ブラシの当て方が難しくなる。

稀に上顎が頬側に傾きすぎ、下顎が舌側に傾きすぎて交叉咬合となっているケースもみられる。その場合は、MTMで対応する。

3. 萌出時期

およそ小学校6年生から中学生にかけて萌出する。すなわち、いわゆる思春期を迎える年頃である。部活や塾などによって生活のリズムも変化するので、精神面での自立をサポートする必要がある。

このような形態、萌出場所、萌出時期がう蝕とも関連し、予防を考える場合でもポイントになる。

シーラント

う蝕の好発部位である裂溝の予防には、シーラントが効果的である。脱落を少なくするためにラバーダム防湿を行い、次亜塩素酸ナトリウムや超音波等により清掃をしっかりと行い、レジン系あるいはグラスイオノマー系の充填剤を流し込み硬化させる（図1）。

HY-C

萌出直後であったり、咬合や歯列の状態によっては最大豊隆部が歯肉より下にあって、ラバーダムのクランプが掛かりにくいときがある。このようなときは、暫間的にHY剤の入ったカルボキシレートセメントを充填することが効果的である。この場合は、簡易防湿下で処置を行う。エアード乾燥させた裂溝に充填器等でセメントをのせ、手指か綿球で擦り込む（図2）。デュラコートやココアバターで防湿するとよりよいであろう。下顎の



図① シーラント



図② カルボキシレートセメント

頬側溝は、歯肉縁下まで伸びていることが多く、適切な形態の診査と充填が望まれる。萌出が完了した時点で除去しシーラントを行う。

フッ化物の応用

フッ化物の応用はもっとも効果的である。とくに萌出途中は、フッ素がもっとも取り込まれやすい時期であると同時に、清掃の難しい時期でもある。ホームケアとしてフッ化物洗口やフッ化物入り歯磨剤の使用が推奨される。歯科医院での定期健診では、フッ化物の塗布とフッ化物入り研磨剤でのPMTC (Professional Mechanical Tooth Cleaning) を行う。

T.B.I.

もっとも遠心に萌出している第2大臼歯のT.B.I.では、歯面にしっかり当てるようにする工夫が必要になる。歯ブラシの選び方は、ヘッドがコンパクトで毛が長すぎず、ネックが細くストレートである物がよい。磨きにくい上顎頬側は口を大きく開けすぎないようにする。大きく開けてしまうと頬粘膜が寄ってきて磨きにくくなるからである。

定期健診継続のために ——コミュニケーション

上述の処置が的確に行えれば、予防効果は非常に高いものとなる。ところが適切な専門家のサ

ポートがなければ、十分なセルフケアは望めない。その意味でも定期健診を継続していくことが非常に重要である。

第2大臼歯の萌出時期は、前述のとおり思春期を迎える頃である。幼児期より定期健診を継続してきたとしても、それは保護者の頑張りによるところが大きかったと言える。子どもたちは両親の言うとおりに、あるいは嫌でも、定期健診に通ってきた。ところがいつまでも保護者の言うとおりにというわけにはいかない。

人に言われたり、決められたりするの嫌だけれど、十分には自立できていない、そんな精神状態の来院者をサポートしていくことが、もっとも大切な専門家の役割である。

NPO法人ウェルビーイングが主宰する予防だけの診療室「ウェルビーイングクラブ」では、13歳になって最初の定期健診の際にヤングオリエンテーションと題して特別に時間をとり、必要な知識を提供したり、これからはどうしていきたいか？などを尋ねるようにしている。

そのときに用いるのが、ヤングアンケート票とヤング問診票である(図3)。ヤングアンケート票は本人に記入してもらい、対面して人に話しにくいことも自分で書くことによって表現しやすいようになる。

記入されたものを歯科医師がみながら話をし、いき、歯科衛生士は、アシスタントの位置で話し

ヤングオリエンテーション問診票

No. 420 氏名 ●谷●太郎 年齢 13 歳
 入会年度 '89・6・24 入会時年齢 1 y. 2 m.
 ヤング移行日 01・5・13 経理期間 11 y. 11 m.

①ヤングオリエンテーション 20 . . . Dr.
 ・いつから来ていると思う? 虫歯にはばらばらに、気をつけて行きたい。
 ・今まではなぜ来ていないのだろう? 歯も痛くなくていいと思う。
 ・これからどうしたらいいの? 歯磨きも気をつけていこうと思う。
 ・検診開始・ユニット習わります
 ・虫歯予防から虫歯再予防へ

②歯周病について 1回目 20/・5・13. 2回目 20 . . .

| チェック項目 | 状態 | 説明 | 1回目コメント | 2回目コメント |
|----------|----|----|-------------------------------------|---------|
| 歯肉炎 | ○ | | | |
| 歯肉炎 | ○ | | | |
| ブラーク・歯石 | △ | ○ | 赤い腫れものや、パラークと歯が 剥がれかかっているように見える。 | |
| Bleeding | ○ | | 腫れもの出血もすよ。 | |
| フローピング | ○ | | | |

③予防するために

| 日付 | チェック項目 | コメント |
|----|----------|------|
| ・ | フッ素入り歯磨剤 | |
| ・ | 歯肉の腫れ方 | |
| ・ | 歯ブラシの選び方 | |
| ・ | フロスの使い方 | |
| ・ | FMR | |
| ・ | フッ素入り歯磨剤 | |

● MEMO ●

☆ NO. 420 ☆ 氏名 ●谷●太郎 ☆ 年齢 13 歳
 ☆ 生年月日 1989 . ● . ●
 ☆ 入会年度 1989 . 6 . 24 ☆ 入会時年齢 1 y. 2 m.
 ☆ ヤング移行日 2001 . 5 . 13 ☆ 小児経理期間 11 y. 11 m.
 ☆ 既活動 チニス 部 ☆ 興味のあること 釣り

アンケート

★ 定期検診について ★

- ・今まで定期検診に来ていて良かったこと、嫌だったことを教えてください
 良かったこと (歯がきれいになるのが好き) 嫌だったこと ()
- ・これから定期検診で忙しくなると思いますが、定期検診を続けていけそうですか?
 (続けていける) 頑張れば続けられる 無理かもしれない
 その際 ()
- ・次のことを知っているですか? ○をしてください。
 説明できる () 聞いたことがある () 知らない ()

歯肉炎 ()
 ブラーク (歯垢) ()
 歯石 ()
 フロス (糸巻き) ()
 フッ素の効果 ()

★ 歯磨きについて ★

- ・歯磨きをしていて血が出ることはありますか?
 (時々) ほとんどない ときどきある よくある
- ・歯ぐきが腫れているいませんか?
 (腫れていない) ほとんど腫れていない ときどき腫れている よく腫れている
- ・日常の歯磨きはどのくらいしていますか?
 一日 (2) 回 (1回) 分位 あまりしていない
- ・歯と歯ぐきの境目を意識して歯を磨くようにしていますか? 歯ぐきも磨くことにきをつけています
 (できていない) していません
- ・フロス (糸巻き) は使っていますか? はい () ときどき () いいえ () 知らない ()
- ・フロスのうがい薬は使っていますか? 1週間のおうら (?) 歯肉 () していません
- ・歯磨剤 (ハミガキ粉) を使っていますか? () 使っています () 使っていない ()
- ・使っている人へ それをフッ素入りですか?
 (はい) いいえ () わかりません ()

★ 生活について ★

・ジュースや炭酸飲料水、スポーツ飲料水などをよく飲みますか?
 飲まない () あまり飲まない () 時々飲む () よく飲む ()

・日のおかしきよく食べますか?
 食べない () あまり食べない () 時々食べる () よく食べる ()

・定期検診を受けるのに都合の良い日は? (あてはまるものに○をしてください)
 日・月・火・水・木・金・土
 何時間ですか? () 頃

| 氏名 | 頻度・内容・日 |
|-----|---------|
| 谷太郎 | 500ml |
| 谷太郎 | 1000ml |
| 谷太郎 | 2000ml |

(ここに記入しないで下さい)

図3 ヤングアンケート票とヤング問診票の記入例

た内容や反応をヤング問診票に記入していく。コミュニケーションでは、発した言葉以上に言葉の抑揚や姿勢・態度などの準言語的・非言語的コミュニケーションが重要で、その変化も見落とさないようにする。きちんと話をしている人の顔をみているか、ほそほそと話すなどといったことをメモしていく。歯科医師が気をつけることとして、いきなり歯の話に入っていくのではなく、部活のことや今興味のあることをきっかけに話のしやすい雰囲気作りを心がける。本題に入るときでも、自分の問題として捉えやすいように「いつから来たと思う?」と過去の定健カルテをめくりながら話していく。過去のメモ覧には、大泣きしていたことやシーラントを頑張ったなどの思い出がある。歯式の欄には、今はなき乳歯の様子が残され

ている。インレーや乳歯冠の経験が過去にあって、永久歯ではカリエスフリーの子どもにとっては「もう銀歯にはしたくない」と思うよいきっかけとなるようである。

これからどうしていきたいかを考えるには、知識も必要である。しかし、一方的な専門家からの説明は受け入れられにくいものである。そこで知識の量と質を自己評価できるようにし、その状態を理解したうえで説明していく。脱灰の白濁や出血など口腔内で起こっていることは、実際に鏡を持ってもらって一緒に確認する。

自分の問題として捉えることができたなら、それについてどう思うかを尋ねる。ヘルスカウンセリングの技法を用いて、観察、傾聴、確認、共感していく。オリエンテーションのときだけでなく、常

に来院者が主役であることを認識しておく。

歯磨きの回数や時間、フッ化物の応用方法など、できるだけ本人に決めてもらう。もしそれが専門家からみて不十分だとしても、まずは受けとめる。大切なことは次回、忘れずにできたかどうか確認すること。上手くいけば一緒に喜び、上手くいかなければ、どうして上手くいかなかったのか聞き、どうしたらよいかを考える。達成感や気持ちのよさを感じてくれたらしめたものである。

自分のことを考えたり、話したりするのは、時に辛いものでもある。無理に答えを急がせず、チャンスを待つ。辛さを感じてしまっただけは、次の来院はない。来院してくれている限りはチャンスが何度でもある。

定期健診を継続するためには、来てよかったと思えることが何よりである。その理由には、“続け

ていればむし菌ができない”という安心感や信念もあるし、来ることによって“気持ちよかった”“楽しかった”という経験も大きいものである。来院者が満足感を得るには、何を望んでいるかをわれわれが理解しなければいけない。そのためには話をよく聞くことである。話し上手であるよりも聞き上手であることが望まれる。

上手くコミュニケーションが取れて、定期健診が楽しく継続されていくと、彼らの大人への成長の様子がよく分かり、それはわれわれにとって大変嬉しいものである。大人になった彼らは、自分で考えて定期健診に通い、フッ化物を応用し、歯磨きをしていく。困ったときでも助けてくれる人たちがいることを知っている。これで第2大臼歯の予防は完璧だと思う！